

[04] 休日の朝早くから

【みさき】

「おはようございます……っと。ふふつ、まだぐっすり眠っていますね」

【みさき】

「まあ、昨晚は激しかったですからね……。せっかくの休日ですし、もう少しだけ寝かせておきましょうか」

【みさき】

「ただ……ふふつ、可愛い寝顔ですね。ジッと見ていたくなっちゃいます……」

【みさき】

「んふつ、子供みたいな寝返り打っちゃって……どんな夢見てるのかなー？」

【みさき】

「私の夢……みたいですね。って……あれ？ なんかあそこが大きく膨らんでいるような……」

【みさき】

「そ～っと……や、やっぱり固くなっています……」

【みさき】

「あ、あれだけした日の朝でも男の人は大きくなるものなんですね……す、すごいです……」

【みさき】

「それで、え、えっと……これはやっぱりその気持ち良くしてあげたほうがいいんでしょうか……？」

【みさき】

「なんだか少し寝苦しそうですし……よし！」

【みさき】

「これも彼女としての大事な役目ですよねっ！」

【みさき】

「そ、それじゃあ失礼して……」

【みさき】

「お、おつきい…………くんくん。夜の残り香が……くんくん……これ、癖になる匂いです……」

【みさき】

「さてと……起きないようにゆっくりと……ぱくっ」

【みさき】

「んっ……んちゅっ……じゅるっ……じゅっ、ん……じゅぼっ……はああっ」

【みさき】

「すごい……おちんちんからまた一段とエッチな匂いがしてきました……な、なんだか私もその気になってきちゃいますね、これ……はむっ」

【みさき】

「じゅふっ……ちゅふっ……んんっ……ふあっ……あっ……じゅるっ……じゅぱっ……」

【みさき】

「じゅるるっ……んっ……おちんちんはこんなに元気なのに、君はまだ起きないんですか……？」

【みさき】

「じゃあこんなのは……んっ……れろっ……どう、ですか……？ 根本……から、先っぽまで……じっくり……と、れろお……れろんっ」

【みさき】

「んちゅっ……はあっ、んっ……れろっ、れろお……んふっ……先っぽからエッチな汁、垂れてきました……れろっ」

【みさき】

「んふつ、今びくびくってしました……寝てても気持ちいいのわかるんですね……はむっ……んっ……じゃあもっといっぱいしてあげちゃいましょう」

【みさき】

「れろっ……んちゅっ……こうして、先っぽを舐めながら……よいしょ、っと……シコシコ……シコシコ……」

【みさき】

「んっ、んちゅっ、んはあっ……すごい、まだおつきくなってる……と、というかこれはもうさすがに起きてます……よね？」

【みさき】

「へえ～、まだ嘘眠を続けるつもりなんですか？」

【みさき】

「君の口で気持ち良いって言ってくれないと、これ以上続けてあげませんよ……？」

【みさき】

「ふふつ、やっぱり起きてるじゃないですか。さっきからずっと小さな吐息漏れてましたし、もうバレバレでしたよ？」

【みさき】

「そ、そうですね……もし仮に君がずっと起きなかつた場合は、この元気なおちんちんを使ってオナニーをしてた…………かもしれません」

【みさき】「そういう君だって朝からこんなに大きくしちゃってるじゃないですか……」

【みさき】「んちゅう……ん、れろお……んふつ、先っぽからはずっとエッチな汁が垂れていますし」

【みさき】「えへへっ、ありがとうございます。それでどうしますか？ 最後まで……しますか？」

【みさき】「パ、パイズリですかっ！？ た、確かに昨日の夜はしなかったですが……わかりました」

【みさき】「ちょっと待ってくださいね？ 今服を脱ぎますので……」

【みさき】「では……よい、しようとふああ……君のおちんちん、すごく熱いです……」

【みさき】「このままじゃ火傷しちゃいそうですね……そしたらこう……じゅるつ……んんーつ……はあつ、あつ……」

【みさき】「そ、そうですか？ ではおまけしてもう一度……んうつ、じゅるつ、んんー……つ」

【みさき】「このぐらいでいいかな……？ 最初はゆっくり動きますので、もし痛いところがあったら言ってくださいね？」

【みさき】「んっ、んっ……ん、ふう……はあつ、あ……ど、どうでしょう……？」

【みさき】「んうつ、ん……ありがとうございます……ん、はあつ……よい、しようと、んあ……あう……」

【みさき】「はあつ、はあつ、んんっ……な、なんだろう……君の……おちんちんが、擦れて……はあつ、んっ……」

【みさき】「はあん、んっ……な、なんだか気持ち良くなってきちゃいました……あ、はあつ……あんっ！ ん~っ、ああっ……」

【みさき】「このまま……ですか？ わかり、ました……んれろっ。ぺろっ……んつ、ぴちゅつ……ぺろ、ぺろお……うふつ……あつ……」

【みさき】「よい、しようとんれろっ、れろお……ん、しようとんちゅつ……んちゅるつ……はあつ、あつ……」

【みさき】「んはあつ、あつ……ぐちゅぐちゅって……いやらしい音がしています……んふふつ」

【みさき】「私の唾液と、君のエッチな汁が混じり合って……ふふつ、にゅるにゅるってしてる……」

【みさき】「んんっ、ん……はあつ、あんっ……ん、しようと、しょっ……ふ、んう……」

【みさき】「……えへへっ、朝から君とこんなエッチなことができるなんて、私すっごく幸せです……」

【みさき】「はい……。幸せついでにもっと気持ち良くしてあげますね……？」

【みさき】「はむっ、んんっ……ぢゅるるるつ、んぢゅるつ！ ジュルルル！」

【みさき】「すごい気持ち良さそうな顔します……。ぱくっ、んんっ……んぢゅるつ！ ジュルルルつ、ぢゅるるるるつ」

【みさき】「いいですよ……いつでもイってください……熱くて濃いのをいっぱい出してください……このまま吸い出してあげますから……」

【みさき】「んぢゅるるるつ！ ジュル！ ジュツブツ、ジュツブツ、ジュブ……じゅるるるつ！」

【みさき】「んむっ！？ んっ、んんんんっ——！」

【みさき】「んう……ん……ぢゅるつ、ぢゅるるるつ、んんう……ぢゅうううつ……んつ……ごくっ、ん……ああつ」

【みさき】

「んっ……はあっ、はあっ、はあっ……す、すごい……いっぱい……出しましたね……」

【みさき】

「あはは……私は逆に元気をもらちゃった気がします……はふう～」

【みさき】

「ううん、大丈夫です……私もすごい気持ち良かったですからっ」

【みさき】

「あんっ！ 恥ずかしいから見ないでくださいっ！ んもう……またパンツ履き替えなくちゃです……」

【みさき】

「お礼……ですか。ではそうですね、今日のお昼でもご馳走してもらいましょうか。あっ、もちろんデザート付きで！」

【みさき】

「本当ですか！？ ふふつ、樂しみですっ。……って、わわっ！ 気が付いたらもうこんな時間ですよ！」

【みさき】

「ですね！ ……あっ！ 一緒にシャワー浴びれば時間短縮できますよ！」

【みさき】

「あー……それは今度のお楽しみってことでっ♪」